

部門別協議会 クラブ奉仕部門 SAA（岩田敏伸、中谷新治、平田有紀子）

挨拶

（アドバイザー・PDG 亀岡 弘）



次期のR Iのテーマ「ROTARY SHARES」には2つの意味があると思います。まず①ロータリーは分かちあう。そして②ロータリーを分かちあう。ということです。このことをまずお考えいただきたいと思います。

クラブ奉仕の中で一番問題になるのは会員増強ではないでしょうか。これは毎年、強調事項の中に入ってきます。

地区委員会はクラブの特定機能を支援し効果的にならしめる役割があります。効果的なクラブと言いますのは、①クラブ会員の基盤を維持し増大する。②地域ならびに他国のニーズに対応するプロジェクトを実行し成功させる。③ロータリー財団のプログラムへ参加し、財政面でも支援すること。④クラブレベルを超えて奉仕できる指導者を養成すること。といえると思います。そのためには能率的・効率的なクラブ管理が必要で、その基本となるのがクラブ奉仕部門だと思っています。

会員増強（退会防止）委員会

（次期会員増強（退会防止）委員長 小林 信夫）

増強なくしてクラブの活性化はないと思います。世界的に見ましても会員の減少が続いています。多少、景気が上向いているような感じですので、このあたりで歯止めをかけて上昇に転じていきたいと願っております。会員増、退会の人数は毎月R Iおよびガバナーに報告する義務があり、数字が明確にわかります。2月の地区チーム研修セミナー、そしてR I会員増強・退会防止委員会（RRIMC）からも厳しい要請がきております。現状と分析はお手元の資料をご覧ください。



【活動計画】

- ① 各クラブは会長、副会長、幹事、増強委員会を中心に、増強を強力に推進していただきたい。
- ② 地域内の入会候補者をリストアップする。商工会議所、医師会、各業界団体 etc.
- ③ 12月末、6月末には退会者が多いので、それまでに情報を察知して退会防止に努めていただきたい。
- ④ 特に少人数のクラブは会員が一丸となって全力投球して下さい。この地区には会員数一桁のクラブが3クラブ、19名以下が9クラブとなっています。
- ⑤ 地区の増強委員は近隣クラブを訪問し（メイキャップでも良い）、増強のお願いを行う。

増強は坂道を登るごとく、退会は坂道を転がるようにみるみる減っていきます。どうか皆様のご協力を切にお願いいたします。



CLPについてですが、まず自身のクラブがどのようなクラブであるか皆さんで考えていただきたいと思います。議論し中長期計画を練っていただいて、そのためにはどのような組織にすれば良いかお考えいただきたい。委員会組織もかなり自由にできるということもRIの推奨細則にでています。その組織に合うクラブ細則にする必要がありますから、クラブ細則を改定していただく作業はあります。場合によってはまた見直していただいてという繰り返しになりますが、こういった手法をCLPと考えるいただければCLPはぜひとも各クラブで採用していただく必要があると思います。検討の

結果、今までの組織が一番良いというのであれば、それはそれで良いと思います。いくつかのモデル的なものを当委員会で作成する必要があるかもしれませんが、当委員会の役目はまず皆様のクラブで考えていただいて、何か相談等ありましたら助言や一緒に考えていきたいと思っています。またガバナー補佐さんは皆様のクラブの事情をよくご存知かと思っていますので、ご相談させていただきたいと思います。

この4月に規定審議会があり、そこで通った案件につきましては定款に反映されます。ですから次期は皆様のクラブで定款、細則を変更していただく必要が必ず生じます。もしご相談がありましたら、各クラブの実状に合った細則作りのお手伝いもさせていただきます。

【活動計画】

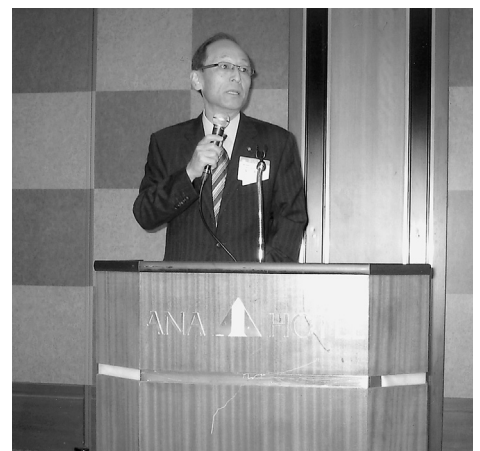
- ① クラブ委員長会の開催（全クラブまたはIM単位）
- ② （要請があれば）各クラブでの卓話
- ③ 地区内各クラブのCLPへの取り組みや細則等の情報の収集
（アンケートやIM単位でのクラブ委員長会議等）

【基本方針】

皆さんは今まで「ロータリーって一体何をしているの？」という質問を何度受けたことでしょうか。ロータリーの活動はあまり知られていないのです。私たちは、地域社会の人々にロータリーの素晴らしい仕事ぶりを知ってもらわなくてはなりません。

広報(Public Relations)は、情報を大衆に伝えることですが、そもそもは組織と公衆との間に良好な関係を築くための行動ですから、広義では、社会の声に耳を傾ける広聴が必要で、組織と社会のコミュニケーションということになります。

社会と関わる時は、相手が受け取れる球を投げないと意味がありません。相手にきちんと受け取ってもらえる球は、社会のニーズや期待に応える行動から生まれます。私たちの奉仕プロジェクトは、地域社会のために実施するわけですから、ロータリーの宣伝や地域社会の人々とのコミュ



ニケーションにはうってつけの球なのです。

RIは、公共イメージキャンペーン「人類のために活動する」を始め、メディアによる広報、看板広告、口コミなど様々な方法でロータリーの善行を伝えています。つまり、私たちの業績をメディアに載せてもらうことだけが広報の目的ではなく、一般の人々にロータリーを理解していただく行動は、全てロータリーの広報活動であると捉えるべきです。折角、新聞に載っても、読者が関心を示して読んでくれなければ何の意味もないからです。

私たちが目指す広報は、普段から人々とのコミュニケーションを通じて地域社会と良い関係を築き、公共の認知度を高める行動であり、その実践は「Rotary Shares」にほかなりません。一人でも多くのロータリーファンをつくり、ロータリーに対する理解と共感を得ることが、在籍会員の誇りと熱意を増進し、会員増強にもつながるのです。

ロータリー広報の目的と必要性を踏まえ、当委員会は「地区IT委員会」や「友の地区委員」と連携し、クラブ運営の活性化とクラブ目標の達成を支援します。

【活動計画】

1. 各クラブから有意義な奉仕活動などの情報を数多く提供していただくため、当委員会の活動内容を機会あるごとに宣伝する。
2. 地区内クラブが相互の情報交流を円滑に進めるため、成功を収めた奉仕活動は、地区HP上の「クラブの広場」に紹介する。
3. 当地区の活動情報を地区外へ発信するため、「友の地区委員」が中心となって、優れたプロジェクトを「友」誌の「地区のたより」などに投稿する。
4. 「友」誌の積極的な購読と有効活用を促すため、毎月はじめ、「友」誌のダイジェスト版をHPの「地区活動」に掲載する。
5. 人々との友好関係を築き認知度を高めるため、立派に完遂された奉仕活動は、メディアや看板広告などを使って地域社会に広める。

IT委員会

(次期IT委員長 寺下 卓)



IT委員会は雑誌・広報委員会とは二人三脚で活動を行っており、各クラブのいろいろな活動の記事もホームページに掲載しています。

IT委員会の大きな柱としましては、各クラブのIT支援と地区のIT化を図るということです。

【活動計画】重点項目

- | | |
|--------------------|------------------|
| ① 地区のロータリー情報の伝達、提供 | ② ロータリー活動のPR、広報 |
| ③ 各クラブの情報交流 | ④ 地区内部組織での活用 |
| ⑤ ロータリー情報のデータベース化 | ⑥ 各クラブのIT支援（事務局） |

共通の定型フォームによる各クラブの紹介ページを作成し、地区内の全クラブの紹介を行うと共に、各クラブのホームページへのリンクを予定しています。そして地区のホームページの作成及び Web サーバーの管理、運営も行います。こちらの方も先ほどの重点項目の基本的な考えに基づきそれぞれのページの構成を行っています。また地区の委員会単位でもご希望をお聞きし、ホームページを立ち上げたいと思います。

地区組織内での情報交換を効果的に行うために、各委員会等でのメーリングリストをご希望に応じて作成し、活用を促進したいと思います。現在は米山奨学生のメーリングリストを運用しています。

クラブ会員データの管理・活用ですが、これは各クラブの会員情報を全部集めて管理するというのではなくて、地区大会をはじめ各会議における出席者の情報管理の効率化を図るために、各クラブとガバナー事務所との間で会員データ（氏名・役職のみ）を交換し連携を図りたいと思います。大き目のファイルサーバーを設置し、過去や現在のロータリー情報を可能な限り電子化し、年度別・事業別に整理・分類しデータベース化したいと思います。

最後に各クラブの皆さんからのご要望で、3ブロックに分けてクラブ事務局員さんのIT研修会を開催したいと思います。R1から2年前に無料でクラブの会員を管理するソフトが出ていますので、この紹介も行いたいと思っています。

会員増強・拡大について

(カウンセラー・PDG 亀岡 弘)

効果的なクラブにするためには四大奉仕部門が関与しており、特にクラブ奉仕部門が全てに関わっていると思います。クラブ会員の維持・増強につきましても、地区の会員増強委員会が当然関与しますし、各クラブではクラブ奉仕部門の委員会が全て関与しています。地元で地域社会のニーズに対応したプロジェクトを実施するにあたり、個々の会員が地元のニーズを知っていなければならないと思います。そのためには社会奉仕委員会とタイアップし、ロータリークラブの情報を広報する必要があります。すなわち広報委員会が関与しています。他国の地域社会のニーズに対応するプロジェクトを成功させるためには、クラブ奉仕部門が国際奉仕委員会と連携する必要があります。成功したプロジェクトの裏には必ずしっかりとした会員基盤が支えているということです。またロータリーのプログラムは沢山ありますが、財政的に地区やクラブの基盤を支えてこそ出来るものです。会員なくして成功はありえませんから、その意味においても全てクラブ奉仕部門が関与していることとなります。

次にクラブレベルを超えてロータリーで奉仕出来る指導者を養成するということですが、そのためにはまずクラブレベルから始めることです。各クラブにおいてクラブ奉仕部門が中心となって、それぞれに精通したロータリアンを育てていくことが大事です。そして地区に出迎えていただき、地区委員会で活動して下さるようになれば、クラブのレベルを超えて指導者になっていただけると思います。このように考えますと、各クラブや地区のクラブ奉仕部門がいかに重要であるか理解していただけたと思います。

会員増強の柱としては、①新会員勧誘、②現会員の退会防止、③新クラブの結成、以上の3つです。次年度のR1会長エレクトは、「ロータリアンというのは実に豊かな多様性に満ちた人々の集まりです。様々な国で様々な言語を話す私たちは信仰も政治的見解も、ひいては哲学的な信念をも異にしています。120万人の会員の間で共通する1本の強力な糸が存在するとすれば、それは分かちあいという名の精神でできた糸です。」とおっしゃっています。ロータリアンは広大な範囲の人道的、社会的問題に挑むプロジェクトを効果的に遂行するために自らの時間や才能、

専門知識、資金を分かちあっています。また思いやりと熱意を分かちあい恵まれない人々を助けより良い世界を築こうという決意を分かちあっています。さらにロータリーを世界 1 級の奉仕団体へと発展させた比類なき奉仕への情熱を分かちあっています。この基本的な寛大な精神を反映させるためにウィルキンソンさんは、「ROTARY SHARES」というテーマを選びました。そして「ロータリーになってから最初の 30 年間は新会員を一人として入会させたことがない。」と申しています。したがってその間、ロータリーの発展に全く寄与していなかったと言えるかもしれません。

また「新会員を連れてくるという責務を果たすために、ロータリアン一人ひとりが地元、地域社会の事業や専門職務のリーダーの方々とロータリーを分かちあうことを願っています。」ともおっしゃっています。次期 R I 会長のリーダーシップチームの全ロータリアンに対して、少なくとも 1 名の新会員を入会させるよう、また元 R I 会長にもこの目標への支援をお願いしています。ロータリーは分かちあうものとなれば、全ロータリアンが新会員を推薦し入会させる責務を分かちあわなければなりません。

「ロータリーを分かちあう」ということは、これから入会される人々と共に分かちあうようにしましょう、「ロータリーは分かちあう」ということは、現在ロータリアンである人々と分かちあいましょ、このように私は考えます。一人ひとりのロータリアンが良き指導者や献身的なロータリアンとなりうる新人をクラブに入会していただくようにすることが、ロータリアン自らの責任であると自覚する必要があります。会員目標としまして、2008 年 3 月 31 日までに 1 名の会員増強を達成してほしいと思います。会員増強の細かい具体的な事項は資料に書かせていただきました。

次に退会防止ですが、ロータリーが末永く成功を収め、健全であり続けるには優れた会員の退会を防止することは新会員の入会と同じく重要です。毎年、会員の自然減少は避けられません。毎年、平均 10 パーセントの自然減少があるとされています。ですから最低その 10 パーセントを毎年補充しなければ、いかに優秀なクラブであっても必ず衰退します。クラブの適正な会員数を維持しつつ、ロータリーに相応しい会員を増強していただきたいと思います。そして CLP の活用によってクラブレベルでのロータリーの強化を図っていただき、会員基盤の維持や会員の増強に繋げて下さい。個人的に私は「退会防止」という言葉よりも「会員維持」または「会員保全」という方が良いように思います。

最後に新クラブの結成です。国際ロータリーが重要な人道的活動を継続し、自国や海外の地域社会での奉仕を拡大していくには、会員基盤を拡大し続けなければなりません。より多くの会員を持つということは、より多くの知識・才能・エネルギーを持つことを意味しています。今の日本の現状を考えると、クラブの拡大は非常に厳しい状況だと思えますが必要なことと考えます。これらのことを資料に書かせていただきましたので、ご一読下さい。



地区においてはクラブ奉仕は4つの委員会しか設けておりませんが、各クラブにおいてはいろいろな委員会を設けていると思います。資料をご覧いただきたいと思いますが、ここ2年間の拡大クラブが8クラブ載っています。また脱会クラブも9クラブ載っていますが、この中には合併したクラブもあるはずです。

クラブ奉仕部門はクラブの管理・運営をされる場所ですので非常に大切です。先ほどの全体会議では「ROTARY SHARES」の意味が解らないところもありましたが、亀岡パストガバナーの話をお聞きして理解が深まりました。私はまた奉仕の理想、思いやりの心、助け合いの心と同じように考えます。

この場には副会長さんが多くいらっしゃると思いますが、副会長さんといえば飾りのような立場になりがちです。しかし会長・幹事にアドバイスやサポートしていただくことで、クラブも活性化すると思いますのでご活躍を期待申し上げます。

質疑・応答

- : データベース化に際し、よく使われるもの、重要なものを優先的に行っていただきたい。
- : 会員増強に関して、訪問し勧誘する際に活動等を知っていただくために、ホームページで近隣クラブの活動などの紹介をできるようにお願いしたい。
- : クラブ奉仕委員長は副会長が兼任するほうが良いでしょうか？
- : 脱会クラブとなる前に衰退しつつあるクラブの同士の再編や合併について、地区として取り組む意向はどうか？
- : ガバナー月信は印刷物で配布された時は読んだが、最近は読む人も少なくなったので良い方策はないか？